

2020 年度

2/1 入学試験

国 語

注 意

1. 試験開始の合図があるまで、この冊子の中を見てはいけません。
2. 試験時間は 45 分です。
3. 問題は、1 ページから 14 ページまで印刷してあります。試験が始まったら最初に確認し、足りないページがあったら申し出なさい。
4. 答えはすべて解答用紙に記入しなさい。
5. 解答用紙には、受験番号・氏名を記入しなさい。
6. 試験が終わった後、問題冊子・解答用紙とも回収します。
7. 記述問題では、指定された字数の 8 割以上は書きなさい。ぬき出し問題では、指定された字数で答えなさい。どちらの場合も、句読点やかぎかっこなどの記号も字数にふくまれます。

共立女子中学校

① 次の1〜8の——線をつけたカタカナを漢字で、漢字の読みをひらがなで書きなさい。

- 1 計画を進めることジタイに無理がある。
- 2 料理にガンエンを使う。
- 3 日本のシユトは東京だ。
- 4 遠くから船のキテキが聞こえる。
- 5 海岸で貝がらをヒロウ。
- 6 あの人は家風を重んじる。
- 7 楽屋の鏡台の前に座る。
- 8 だれにでもできる易しい仕事。

2 次の慣用句の ① ⑤ にあてはまることばを、下の（ ）内の意味になるように、後のア～オの中からそれぞれ一つずつ選び、記号で書きなさい。

1 ① が立つ (世間に対する名譽めいよが保たれる)
ア 足 イ 息 ウ 腕うで エ 顔 オ 口

2 口が ② ない (次々と負け惜しみや言い逃れのがを言う)
ア かたく イ 軽く ウ すべら エ 焼か オ 減ら

3 腹を ③ (覚悟かくごを決める)
ア かかえる イ くくる ウ たてる エ いためる オ きる

4 二の ④ (他の人と同じ失敗を繰り返すこと)
ア 足 イ 句 ウ 舞まい エ 次 オ 腕

5 ⑤ を焼く (取り扱あつかいに困る)
ア 手 イ 頭 ウ 舌した エ 肩 オ 爪つめ

③ 次の詩を読み、下の問いに答えなさい。設問のために行頭に番号1～25を振っています。

小さな私の庭

またの あつこ
俣野 温子

- 1 小さな私の庭
2 たぶんそこには ^①私のすべてがある。
3 知らぬ間に育ち
4 知らぬ間に
5 枯れてしまったものたちがいる。
6 ② 何かに迷うときは
7 注意深く眺めている。
8 私自身を知るために…。
9 まだ私の中にも
10 あなたの中にも
11 隠^{かく}されているものが必ずあるはず。
12 土の中に眠^{ねむ}っている時間に
13 やっと目覚めるものがあると信じて。

1 — 線①「私のすべて」とありますが、これは何のことですか。その説明としてふさわ

しいものを次の中から一つ選び、記号で書きなさい。

ア 私の持っているもの

イ 私の人生そのもの

ウ 私が考えていること

エ 私が経験してきたこと

オ 私に与^{あた}えられているもの

2 ② に入ることばとしてふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で書きなさい。

ア さらに

イ たぶん

ウ やっぱり

エ だから

オ それなのに

14 けれど急がない
15 春が来るまでは。

16 夢中でさがさなくてもいい。
17 ③ 本当に信じているなら。

18 誰かにわかってもらわなくてもいい。

19 ④ 自分以上に自分を知ることが
20 誰にもできないから。

21 忘れてしまっても大丈夫。

22 それが本当に必要なものなら
23 きつと思いい出せるから。

24 小さな私の庭は

25 ⑤ いつもそんなことをいう。

『泣きたいほど青い空』廣済堂出版による

3 — 線③ 「本当に信じている」とありますが、何を信じていると読み取れますか。その説明としてふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で書きなさい。

ア 地位や名譽

イ 自分のもつ可能性

ウ 他人から注がれる愛情

エ 自分の将来の夢

オ 誰とも違う自分らしさ

4 — 線④ 「自分以上に自分を知ること」とありますが、どういうことですか。その説明としてふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で書きなさい。

ア 私の知らない部分を誰かが理解しているということ

イ 本当の自分を知りたいと思うこと

ウ 誰よりも私のことを分かる人がいるということ

エ 自分のは実はよく分からないということ

オ 自分が一番自分のことを理解しているということ

5 — 線⑤ 「そんなこと」が指す部分はどこから始まりますか。その行の番号を書きなさい。

4 次の文章を読み、後の問いに答えなさい。

「ここまで」のあらすじ……「ぼく（タケシ）」とケンタは小学校六年生で、四月からメイが同じクラスに転入してきた。メイは育ちの良い優等生で、ひとみの色は周りの目を引くうすい茶色。メイはあるきっかけでタケシと友達になり、タケシのおばあちゃんである「あかりさん」が認知症だと知ったことから、認知症について調べてくれた。次の文章は、もともとパーキンソン病にかかっていた「あかりさん」が認知症でもあったとタケシが知る場面から始まる。

〔A〕 母さんは、しばらく自分の手を見ていて、ぼくの方に顔を向けた。

「これからが大事な話。あかりさんは、病気かもしれない」

「パーキンソン病でしょ？」

「パーキンソン病は、もともとの病気。聞いたことあるかな。『認知症』というの」

「にんちしよう？」

「脳の精神的機能がおとろえていく病気のこと」

『『せいしんてきぎのう』って？』『おとろえる』って？』

「記憶力や判断力が弱まったり、時間や場所がわからなくなったり、人間関係がわからなくなったりする。例えば、自分のしたことを、まるごと忘れてしまったり、自分の家がわからなくなったり、今日が、何月何日かわからなくなる。もっとひどくなると、家族のことも、だれなのかわからなくなる。考えたり、覚えたり、計算したりする力が弱まって、いろんなことを忘れてしまう」

「どうして？」

「脳の細胞がこわれたり、血管が詰まったりして、脳に異変が起きるの。あかりさんの場合は、もともとパーキンソン病でしょ。からだを動かす機能の病気だけど、それがひどくなると、精神的な働きも弱ってくることもある。そのために認知症になるんだって」

母さんの話は、むずかしかった。

脳のなかでこまったことが起きているのはわかるけれど、「忘れる」って、よくあることだ。

「このごろ、あかりさんらしくないことが、いろいろある。なんとも同じことを聞くし、薬やお気に入りの服や、身のまわりのものを、

ないないってさがしてる。認知症のはじめは、そういうことがあるそうよ」

「ぼくだって、いわれたこと、すぐ忘れる。そうすると『ボケてんじゃないよ』とつっこまれるけど、あかりさんもボケてるってこと？」

そのことばに、母さんのひとみがかげった。

「みんな、よくそう言って笑うけど、そのいいかたはきらいだな……。認知症という病気で忘れていくこと。それはあかりさんのせいじゃない。それなのに、『ボケてる』っていわれると、わたしのお母さんが、バカにされているみたい」

顔をあげてぼくを見ると、

「なんだか悲しくなっちゃう……」

そういつた声がつまって、目をふせる。

① 耳の奥で、ぼくの心臓が、ドキンと音をたてた。

（中略）

〔B〕 メイとケンタとぼくは、休み時間や給食のあと、よく三人でいっしょにいるようになった。クラスメートには、あこがれの存在のメイが、ぼくたちとどうして仲よしになったのかは、さっぱりわからなかったみたいだけど。

「ケンタくんといっしょに、遊びに行ってもいい？」

いつものように三人でふざけていたら、メイがいいだした。「えっ。うち？」

ぼくは、びっくりした。

「うん、場所は、もう知ってることだし」
メイはにっこりする。

「えー、なんで知ってるんだ。なんで？」
ケンタがしっこくメイに聞いている。

ぼくは、返事にこまった。あかりさんが元気だったときは、友達をさそって、よくうちで遊んだけど、認知症がはじまってから、家にだれかが遊びに来たことがなかった。

母さんがダメといったわけじゃない。「へんなあかりさん」が最高潮になったら、どう思うかと気になっただけ。メイのおばあちゃんみたくには、できないから。

でも、ふたりは、あかりさんの病気について知っている。メイは、ぼくよりも、病気のことを調べて勉強しているから、受けとめてくれそう。なによりも、ふたりが遊びに来たいといってくれたことが、うれしかった。

① 「あかりさんですね。こんにちは、おじゃまします」

メイはあいさつをしてから、自分とケンタを紹介した。

「ここにしながら聞いていたあかりさんは、
「ゆつくり遊んでいってね」

と、「いつものあかりさん」だったから、
「ふつうだよね」

小さな声でケンタがいった。

② 「注」カリンはメイの顔をじつと見つめて、興味しんしんだ。

そのあと、ぼくの部屋に移動すると、母さんがジュースとおかしを持ってきた。友達が家に来たのは久しぶりだから、母さんもうれしそうだ。

③ カリンは「忘れ物しちゃった」とか「これ、見せたことある？」とかいって、なんども部屋をのぞきに来る。

「カリンちゃんも、こっちに来る？」
メイに声をかけられると、ちゃっかりすわりこんだ。

④ ふたりが帰るときだった。メイはあかりさんに声をかけた。

「あかりさん、おじゃましました」
「あら、どなた？」

「お、やっぱり覚えてない」
肩ごしにのぞきこんでいたケンタが、そういつてささやくのを、

「井上メイと、こっちは田中ケンタくんです」
と、答える。

「そちらは？」

「あかりさんが、まっすぐぼくを指さした。それを見て、ケンタは
一瞬凍りつく。」

「これがあ」

ケンタがまたささやいたから、メイはひじ鉄をくらしながら、
「こっちは、工藤タケシくんです」

と、ぼくのこと、同じように答えた。

「まあ。うちの孫も同じ名前ですよ」
とたんに、あかりさんは声はずませた。

「まだ、赤ちゃんですけど、とつてもいい子なの。大きくなったら、
あなたたちみたいに仲よしのお友達ができるといいわね」

それを聞いて、ケンタは目を注しばたいて、ぼくの顔をのぞきこむ。ほんとにわからないんだな、そんな目でぼくを見る。ぼくだって、家族なのにこんなふうにいわれると、やっぱりへんな気持ちだった。

落ち着かないぼくたちには関係なく、メイは、なんでもないように話を続けた。

「赤ちゃんのタケシくん、かわいいでしょうね」

「ええ、どの赤ちゃんを見ても、うちの孫が一番ですよ」
あかりさんは、うれしそうにほほえんだ。

⑤ 「タケシくんのこと、大切に思ってるんだ」
外にでると、メイがいった。

「ぼくのこと、わからなかったよ」

「孫がかわいい気持ちは、同じなんだと思うけど」

「そうかな」

「あかりさんの世界に、寄りそってあげばいいんじゃない」

「寄りそう?」

「うん、覚えてないから、まちがっているっておこったりしないで、そのまま聞いてあげるのがいって書いてある(注3)サイトを見たよ」

「ぼくは、③ってことにすればいいわけ?」

「あかりさんにとつては、そうなんでもん」

「じゃあさ、赤ちゃんになればいい。おむつしてバブバブって」

ケンタがまぜっかえした。

「こいつ!」

ぼくは飛びかかってヘッドロックすると、髪の毛をくしゃくしゃにかきまわした。

「やめる、ヘアスタイルが乱れるじゃないか」

「ぼくは赤ちゃんだからね、バブバブ」

メイが笑って、ケンタとぼくもくすくす笑う。

道にのびた三人の影がふるえた。

「また明日ね」

ふたりは、一本道を、自転車に乗って帰っていった。

【F】「帰ります」

その日の夕方になって、あかりさんはいつものようにいいはじめた。

母さんは、夕ごはんの支度のために、包丁を持ったまま「えっ、

いま?」ちよつと、待ってね」とうろろうろしている。目の下が黒く

なって、寝不足の顔だ。

ぼくは、メイのいった「あかりさんに寄りそう」って、どんなこ

とかなと思いつながら、

「ぼくが行くよ」

と、思いきっていった。

「まあ……。でも、だいじょうぶかなあ?」

「このへん一周するだけでしょ」

「そう? 頼っちゃおうかな。タケシと母さんのチームプレイね!」

そういわれると、④くすぐったいような気分。ぼくにも、母さん

のためにできることがある。

カリンがついていくといいはったので、いっしょに車いすを押し

て門をでると、

「ご親切に、ありがとうございます。しっかりしたお兄ちゃんと妹さんねえ」

あかりさんはほほえんだ。

少し行ったところで、「どっちに行けばいい?」と聞いてみた。

あたりを見回したあかりさんは、こまったような顔で、ぼくを見る。

「あの、ここは、どこですか?」

日が沈んで、外は暗くなってきた。濃い青色にそまった空に、切り紙細工のように、くつきりした三日月がでていた。

どこへ行きたいかわからないまま、ぼくたちは歩きつづけた。

家々の窓には、あかりがともっている。

「おにい。おなか、すいた」

カリンがすり寄ってきて、ぼくのうでに手をまわした。歩いてい

るのは、ぼくたちだけだ。

「わたしのお家は、どこでしょうか」

あかりさんは心細そうにつぶやいた。

ぼくたちは近所を一周して、もどってきた。母さんが(注4)門灯

の光の輪のなかに、ぼつんと立っているのが見える。

「今夜は、すき焼きだっかってたってだから、いっしょに食べようよ」

ぼくは、あかりさんについてみた。

「すき焼きは、大好きなんです。お家は、どちらですか?」

「あそこで、待ってる」

母さんが手をふっているほうを指さすと、あかりさんは、ほつとしたようにうなずいた。

「おそくなつて、おなかもへりましたから、夕食をいただきますよ」

うか」

そういうと、はずかしそうにほほえんだ。

㊄ その夜は、みんなですき焼きを食べた。あかりさんも、おいしいそうに、いつもよりたくさん食べた。

お風呂のあと、早目にベッドにはいった。ぼくは、なかなかねむれなかつた。

寝返りをうつと、電気を消した部屋のなかで、小さな緑色の光が、ひとりぼっちの星みたいに光っている。父さんから借りたノートパソコンが電源をつないだまま、勉強机の上に置いてあった。

緑色の光の先には、メイがいる。

ぼくは一気に起きて、パソコンをひらいた。

差出人 Takeshi

宛先 May

件名 「⑤迷子の女の子」

今日の夕方、また家に帰るっていいだしたあかりさんに、初めてついていったよ。

近所を一周しながら、どこへ行くこうかって聞いたたら、それがわからないんだ。

そのときのあかりさんは、迷子の小さな女の子みたいだった。

あかりさんは、ぼくよりたくさん生きてきたから、いっぱい思い出があるのに、忘れちゃうんだね。どんどん忘れていくと、知らない場所ばかりだし、知らない人ばかりになっちゃう。ぼくのことだって、わからないんだから。そうなつたら、あかりさんは、世界でひとりぼっちだ。こんなのって、ひどいよ。

少しすると、メイから返事が来た。

差出人 May

宛先 Takeshi

件名 Re:「迷子の女の子」

知らないことばかりだと、きつと不安でこわいよね。

あかりさんが、タケシくんのことわからないなら、友達になれればいいんじゃない。友達になって、毎日教えてあげればいいよ。

ぼくは、またメールを送った。

差出人 Takeshi

宛先 May

件名 Re:Re:「迷子の女の子」

むかしの写真があった。あかりさんが、子どものころの母さんと写ってた。

母さんはカリンくらいの年で、あかりさんは、いまの母さんみたいに若かった。

年をとって病気になるって、家族の顔もわからなくなってしまふなら、ぼくは、年なんかとりたくないよ。

⑥
すぐに返事が来た。

差出人 May

宛先 Takeshi

件名 Re:Re:Re:「迷子の女の子」

わたしたちだっておとなになって、いつか老人になるけど、それは先のこと。

来年は中学生。新しくはじまる中学生生活が楽しみじゃない？

(近藤尚子『あかりさん、どこへ行くの?』フレーベル館 による)

注1 カリン Ⅱ 「ぼく」の妹

注2 しばたたいて Ⅱ しきりにまばたきをして

注3 サイト Ⅱ インターネット上のページ

注4 門灯 Ⅱ 門や玄関口に取り付けた電灯

1 線①「耳の奥で、ぼくの心臓が、ドキンと音をたてた。」とありますが、これはなぜだと読み取れますか。その説明としてふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で書きなさい。

ア 大好きな母さんに「きらいだな」と言われ、ショックを受けているから。

イ あかりさんが認知症だということに同情し、悲しみを感じているから。

ウ これからの困難が予想されるあかりさんとの生活に自信がもてていないから。

エ 母さんを傷つけるつもりでなかったのに、傷つけてしまいあせっているから。

オ 母さんの悲しさに共感し、「ぼく」もまた強い悲しみを感じているから。

2 ②の場面から「ぼく」の気持ちはどのように読み取れますか。その説明としてふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で書きなさい。

ア せっかくの友達からの申し出だったのだが、母さんが断りそうなので不安を感じている。

イ 認知症のあかりさんの様子を仲の良い友達に知られたくなく、返事に困っている。

ウ 認知症であるあかりさんのことを知ったうえで遊びに行ってもいいかと聞いてくれて、喜んでいる。

エ ケンタも知らないメイとの仲の良さに優越感を感じ、ぜひ二人に遊びに来てもらいたいと思っている。

オ メイとの距離が縮まっていることに最初は驚いたが、ケンタとも一緒に遊べるのでうれしく思っている。

3 線②「カリン」とありますが、このときのカリンの様子の説明としてふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で書きなさい。

ア タケシの友達が遊びに来てうれしそうにもてなす母の姿に、自分も手伝えることがないか様子を見ている。

イ 本当はメイに甘えたいということを出せず、メイに対して違う話題を振ることでもかまってもらおうとしている。

ウ あかりさんが「いつものあかりさん」だったので不安がなくなり、お兄さんたちと遊びたいと思っている。

エ ふるまわれるジュースやお菓子をお菓子を自分も食べたくて、部屋をのぞきに来ては食べる機会をうかがっている。

オ 久しぶりに兄の友達が遊びに来たことがうれしくて、その輪に加わるために気を引く行動を繰り返している。

4 ④の場面から読み取れることとしてふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で書きなさい。

ア メイは認知症のあかりさんの言動に反応するケンタを軽くあしらいながら、あかりさんにとって自然な対応を心がけている。

イ 自分を孫だと分らなかったあかりさんに驚いたタケシの気持ちを察して、メイはタケシを傷つけないように慎重に話をしている。

ウ ケンタは認知症のあかりさんの言動に驚き、タケシが普段から苦労しているのだと想像し、タケシに対して同情している。

エ タケシはあかりさんのことばに驚くばかりだったが、メイがうまくあかりさんに接しているのを見て感心し、メイを見直している。

オ タケシはケンタがあかりさんに対して失礼な態度をとっているように感じ、それがあかりさんに伝わらないかとほらはらしている。

5 ③にあてはまることばとしてふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で書きなさい。

ア 孫のタケシだ イ まだ赤ちゃんだ ウ 成長したタケシだ エ 一番かわいいんだ オ すでに六年生だ

6 — 線④「くすぐったいような気分」とありますが、これはどのような気持ちだと読み取れますか。その説明としてふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で書きなさい。

ア 母を手伝うことで自分も大人の仲間入りをしたのだという思いから、満足げで得意になっている。

イ 家族として当たり前のことをするだけなのに母に感謝され、まんざらでもない気分である。

ウ いつもあかりさんを世話している母と同じ立場になれることに、喜びと気恥きはずかしさを感じている。

エ しっかりしたお兄さんを演じたことを見透みかされ、落ち着かずに見たままの気持ちになっている。

オ メイだったからこのようにあかりさんと接するだろうと思ひ、メイを強く意識した行動に照れてしまっている。

7 — 線⑤「迷子の女の子」とありますが、このメールの件名から読み取れることとしてふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で書きなさい。

ア あかりさんが小さい頃ころにもどつたように純真であどけない様子だったということ

イ メイの言っていた接し方が正しいのかどうか分からなくなってしまったということ

ウ あかりさんの様子がカリンと同じように幼く頼りなく見えてしまったということ

エ あかりさんが年齢ねんれいの離れた人たちに囲まれてひとりぼっちに見えるということ

オ あかりさんが、周りに知り合いもおらず、知らない場所ばしょで心細そうに見えたということ

8 — 線⑥「すぐに返事が来た。」とありますが、この返事のメールにはメイのどのような気持ちがかめられていると読み取れますか。次の (A) (B) にあてはまるかたちにして、それぞれ二十字以内で書きなさい。

() A () ではなく、 () B () 気持ち。

(下書き用)

B			A		
気持ち。					
16			16		

5 次の文章を読み、後の問いに答えなさい。

【A】言葉でなく、音や匂いでわかることもたくさんあります。またまた①朝食の話で恐縮ですが、民宿などでは朝、(注1)フロントに誰もおらず、食堂の場所がわからないことがあります。そのときも心配無用です。ベーコンの焼ける香ばしい匂いをたどっていけば、食堂にたどり着けます。少なくとも、キッチンの場所はわかるはず。そうしたら、そこにいるひとに食堂の場所を教えてください。

食堂に誰もいなかったら？ ドアが閉まっていたら？ そこは「グッドモーニング！」と大声でいえばよろしい。きっと誰かがきて、開けてくれるはずですよ。【ア】

ここでもやっぱり、②「ことが大事。「言葉が通じなくて気まずい思いをするくらいなら、朝食抜きでもいいか」なんて、諦めないで。旅行先で、朝ごはん抜きで1日歩くのは嫌ですよね。目的を達成するためなら、③手段を選ばずトライしましょう。

海外に何度もいっていると、日本人は英語に対する独特の(注2)メンタリティーがあると感じます。なにしろ、そばに日本人がいるだけで、とたんに英語がしゃべれなくなってしまうのだから。【イ】

きっとそのひとも、日本人がいない場所で、ホテルでチェックインをしなくちゃいけない状況になったら、どんなにめっちゃくちゃでも英語を話そうとするはずですよ。下手でも、ここで英語を使わないと今夜は野宿しなくてはならないわけです。

でも、日本人もまわりにいるパーティーだと、だんまりを決め込んでしまう。日本人が複数人いると、日本人とばかりしゃべるといっても、よくない慣習です。【ウ】

この恥の気持ちはどこからきているのでしょうか。こうした恥の意識が強いことは、日本という国にとってもマイナスだと感じます。海外にいる日本人が積極的に英語でコミュニケーションすれば、日本の(注3)プレゼンスはもつと上がるはず。誰もかつこ悪いなんて思っていないですよ。

なお、(注4)ネイティブに近い帰国子女も日本人には敬遠されることがあるそうです。(注5)「キザなやつだ」「変な発音」とかえってバカにされた経験があるという話をよく聞きます。これは「みなさん、ご一緒」の国では、良くも悪くもひとさまと違ったことをしてはいけない、ということなのでしょう。「なにかいわれても平気。自分なりにやるからいいわ」と開き直るしかないですね。

【B】ここで参考になるのが、大阪のひとのメンタリティーです。以前、オーストラリアのシドニーのお土産屋さんに行ったとき、先客に典型的な「大阪のおっちゃん」がいました。

彼はまず「ハウマナー？」と値段を聞きました。すると店員が「12ドル」と答える。そうしたら「もっと(注6)チープ！」と大

声で値切り始めました。「もっと」が日本語だなんて細かいことは気にしない。それでも、ちゃんと値切り交渉ができています。この様子を見て「英語を学ぶ日本人に足りないものが、大阪のひとはある……！」と思いました。単語や文法がわからなくても、伝えたいことを一生懸命大きな声でいう。その姿勢がなにより大事だからです。

考えてみると、大阪のひとは日本でもよく商品を値切っています。百貨店だろうと、家電量販店だろうと、とりあえず値切ってみる。安くなったら儲けもん。これはきつと、大阪が商売で栄えた商人の町であることからきているのでしょうか。私も出身が兵庫県なので、こうした大阪の感じはよくわかります。

そしてこの「大阪人」の特徴は、今や世界中で活躍している中国人とも通じるところがあります。せつかちなところやはつきりものをいうところも、似ています。【エ】

大阪のひとは外国のひとから見ると、他の地域の日本人よりも、比較的声音が大きく、身振り手振りがはげしく、人なつっこいと感じられるようです。この性質が話すのに向いていますよね。またお笑いの文化があるせいも、男女問わずポンポン話すひとが多いのも大阪のひとの特徴。発話量が多いのは、外国語を習得する際に大事なことです。英語を学ぶときは、身近な大阪のひとを見習ってみてはいかがでしょう。

いくら熱心に外国語の勉強をしていますが、家で「メシ、フロ、寝る」しかいわないひとが英語になつたら急に雄弁になるなんて考えられません。【オ】

また、「アレはどこへいったかな」「ああ、コレですわね」「ソレソレ」というような「身内限定会話」だけで過ごしておられる方がどんなに外国語を熱心に勉強しても限界があると思います。まずは、日本語で「自分のいいたいこと」を、正しく、簡潔に、相手の気持ちを書けないように、話せるようになることが大事だと思います。

(若宮正子「独学のススめ」中央公論新社 による)

注1 フロント Ⅱ 受付

注2 メンタリティー Ⅱ 心のあり方

注3 プレゼンス Ⅱ 存在感

注4 ネイティブ Ⅱ 外国で生まれ育った人

注5 キザな Ⅱ 気取っていていやな

注6 チープ Ⅱ 「安い」という意味の英語

注7 雄弁になる Ⅱ 力強く、すらすらと話す

1 — 線①「朝食の話」とありますが、**A**のまとまりにはこのように例がいくつかあります。それらから読み取れる筆者の主張としてふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で書きなさい。

ア 匂いさえたどつていけば、なんとか朝食にありつける。

イ 人の力を借りることで、解決することもある。

ウ どんな時でも前向きに話したり行動したりすることがよい。

エ 日本人は、ひかえめに生きていけばよい。

オ 人に聞くぐらいなら、朝食は食べなくてよい。

2 **②** にあてはまることばとしてふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で書きなさい。

ア あわてない イ かっこつけない ウ さわがない エ めだたない オ おびえない

3 — 線③「手段を選ばずトライしましょう」とありますが、筆者はどのように話すべきだと考えていますか。**A**のまとまりにあることばを用いて、次の() にあてはまるかたちにして、三十文字以内で書きなさい。

() 話すべきだ。

(下書き用)

話すべきだ。					
					24

4 ー線④「英語を学ぶ日本人に足りないもの」とは何ですか。次の() にあてはまることばを文章中から三十五字以内で探し、その初めと終わりの三字を書きぬきなさい。

() ー

5 ー線⑤「大阪人」の特徴は、今や世界中で活躍している中国人とも通じるところがあります」とありますが、どのような点が通じているのですか。その説明としてふさわしくないものを次の中から一つ選び、記号で書きなさい。

ア 中国人も大阪のひとのようにすぐに行動に移す。

イ 中国人も大阪のひとのように言葉が通じなくても伝えようとする。

ウ 中国人も大阪のひとにはつきりものをいう。

エ 中国人も大阪のひとのように独特の発音の仕方がある。

オ 中国人も大阪のひとのように細かいことは気にしない。

6 ー線⑥「身内限定会話」とは、どのような会話をさしますか。その説明としてふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で書きなさい。

ア 指示語を多く使い、特定の間柄あいながらでしか通じない会話

イ 自分の言いたいことでも、はつきり口にしない会話

ウ お互たがいの言いたいことを、推測しあいながら話す会話

エ 少ない単語を最大限活用して、思っていることを話す会話

オ 小さい子にもわかる、かんたんな言葉で話す会話

7 この文章には次の一文がぬけています。この文があてはまる場所を、文章中の【ア】～【オ】の中から一つ選び、記号で書きなさい。

眼めの前の相手よりも、まわりの日本人がどう思うかが気になってしまふのですね。

(問題はこれで終わりです)

